

医療・介護 改革の主役たち

に役立ててもらおう。

「三百万人あまりいるとみられる色覚障害者の九九％は赤と緑を見分けにくい」(伊藤社長)。

開発した眼鏡型の色弱模

擬フィルター「バリアン

トル」(三万四千五百

円)と、ルーペ型の「パ

ンケーキ」(一万九千五

百円)は、赤と緑が見分

けにくくなるよう特殊な

加工を施してある。

レンズには無機酸化物

の薄膜を特殊技術で三十

数層蒸着させた。薄膜は

それぞれ赤と緑の中でも

特定の波長の光を通さな

い性質を持つ。重ねるこ

とで赤と緑の全体を見え

にくくした一方、白色光

を透過しやすく工夫し、

暗くなるのは防いだ。

色覚障害、模擬製品で実感

このレンズを使えば、も受けている。

二〇〇六年末のバリアだが、対応は全般に遅れ E D)を使ったものが増 (複合機)でコピーが可 だが、対応は全般に遅れ E D)を使ったものが増 (複合機)でコピーが可 だが、対応は全般に遅れ E D)を使ったものが増 (複合機)でコピーが可



伊藤寛社長

《会社概要》

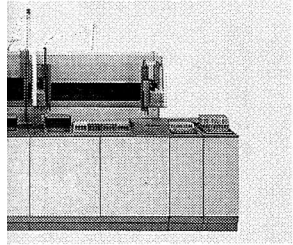
- ▽本社所在地 愛知県蒲郡市宮成町3-19
- ▽電話 0533-69-3311
- ▽事業内容 眼鏡レンズ・光学薄膜製造

伊藤光学工業(愛知県)

検査装置、4機種に集約

コスト抑え納期早く

医療機器メーカーのアロカは、医療機関や臨床検査会社が病気の診断などに使う検体検査装置の事業をてこ入れする。顧客ごとの仕様で設計していた手法を改め、受注実績が多い四機種ほどに集

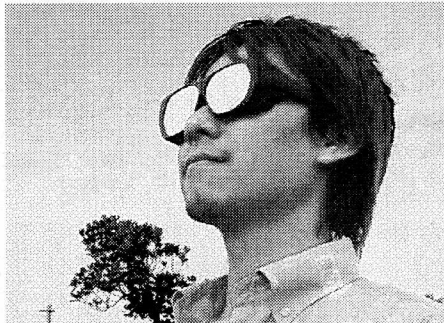


臨床検査で、試薬検査前に血液などの検体を処理する装置の設計を見直し上げていた。納入後も各処理段階の機構のモジュール化を進め、設計や生産の効率を改善。機構の組み合わせも受注実績が高い約四種類にす

検体の移し替えなど、装置の動きを制御する機構やプログラムといった要素技術の開発も始める。二一三年後には、より小型で処理速度が高い新製品の発売も目指す。二〇一一年三月期の事業売上高を〇七年三月期の実績に比べて約二割多い七十八億円に引き上げる。臨床検査受託市場は診療報酬の引き下げも影響

市場拡大の機運も高まっている。アロカは前処理の装置を急ぐ。に力を入れており、安定して受注できる体制の構築を急ぐ。

日本ジェネリック製薬協会(東京・中央)の沢



赤と緑が見分けにくい眼鏡を開発した。伊藤光学はこれまで、急の出発時間 伊藤光学はこれまで、急の出発時間 伊藤光学はこれまで、急の出発時間

パン・タナ・ベンジャ ロシユ・ダイアが吸収 病理・血液検査、補完見込む

スイス系検査薬のロシユ・ダイアが吸収。パン・タナ・ベンジャは病変の組織を調べる病理検査用の装置や試薬を手がけ、血液検査に強みを持つロシユ

ジェネリック製薬協会会長見通し 沢井製薬は「後発薬事業で世界三十位。国内で